

一風呂あびて一杯

野瀬 隆平

最近、週に一日か二日休肝日を設けるように心掛けているものの、夕食時にはお酒につい手が伸びてしまい、量は少ないがほぼ毎晩晩酌することとなる。日本酒のことが多いが、料理によっては赤ワインあるいはウイスキーになる。一日をおえて一風呂あびてさっぱりとしたあと、一人チビチビと呑む一杯は何物にも代えがたい。

気心の知れた友と語り合いながら呑むのは、更に楽しいには違いない。けれども、一時間以上かけて、自宅まで帰らなければならないとなると、心から酔えない。しかもまだお風呂にも入っていない。

都心で一風呂浴びてから呑むにはと考えていて、銀座にも銭湯があるのを思い出した。銀座通りから一本入ったところにある「金春湯」。名前の由来は、金春流の能の役者が幕府から拝領した屋敷のあった場所からこの名がついたという。この金春湯は、江戸時代からある老舗であるが、昭和三十二に現在の建物に改築されたという。午後二時からやっていて、料金は大人五百二十円だ。

この銭湯で一風呂あびて、いつもの飲み屋に行く手もあるが、まだ実現していない。そうこうしている内に、最近豊洲に「千客万来」という施設が出来たというニュースを聞いた。築地から移転した豊洲の市場に隣接した所にある。その中に温泉に入れる「万葉倶楽部」と称する所があり、箱根や湯河原から運んできた温泉にはいることができるという。しかも、この入湯施設、そのまま宿泊することもできる。さらに、市場から直送される新鮮で美味しいものが食べられる「江戸前市場」という一角もあり、お客の全ての欲求を満たしてくれる。

しかし、温泉に浸かるだけで、入湯税を加えると四千円もかかる。それならば、この様な出来立ての人工的な雰囲気のある場所に入り込むよりも、いっそのこと箱根や湯河原に行った方が良くはないか。

やはり、銭湯で一風呂浴びた後に、直ぐ近くにある行きつけの飲み屋に行った方が情緒がある。さて、誰といつ行こうか。